

本庄北地区		小学校区				
		旭	仁手	藤田	本庄西	本庄東
区域面積※1	2,350 ha	603 ha	513 ha	695 ha	176 ha	364 ha
人口※2	31,761 人	6,029 人	1,528 人	2,984 人	13,934 人	7,286 人
緑被率※3 (緑被面積／区域面積)	60.8%	62.0%	74.3%	72.0%	26.5%	33.2%
緑地率※4 (緑地面積／区域面積)	58.6%	60.6%	79.5%	73.5%	18.5%	16.9%
都市公園整備水準 (都市公園面積／人口)	6.4 m ² /人	5.5 m ² /人	6.0 m ² /人	2.0 m ² /人	2.1 m ² /人	17.3 m ² /人

市民アンケート調査※5	問 6 将来残しておきたい緑	最多回答	大規模公園の緑	大規模公園の緑	大規模公園の緑	大規模公園の緑	大規模公園の緑
		2 位	水辺	水辺	神社仏閣の緑	神社仏閣の緑	市街地に残る緑
		3 位	神社仏閣の緑	社寺の緑	水辺	身近な公園の緑 市街地に残る緑	身近な公園の緑 水辺、社寺の緑
	問 8-2 住まいの近くの緑に満足している		3.23	3.04	3.27	3.29	3.09
	問 8-5 公園等でレクリエーション活動が楽しめる		3.04	2.67	2.71	3.18	3.03
	問 12-1 ベンチなどの休憩施設が充実している		2.82	2.54	2.49	3.06	2.87
	問 12-2 安全に遊べる遊具が充実している		2.53	2.42	2.39	2.57	2.57
	問 12-10 身近な環境に公園がある		3.35	2.66	2.56	3.79	3.65
	問 18 公園・都市緑化 行政における 優先すべき施策	最多回答	大きなレク空間の 充実	自然環境保全	街路川沿いの緑化	大きなレク空間の 充実	大きなレク空間の 充実
		2 位	街路川沿いの緑化	街路川沿いの緑化	身近な公園再生	街路川沿いの緑化	自然環境保全
		3 位	身近な公園再生	大きなレク空間の 充実	大きなレク空間の 充実	身近な公園再生	身近な公園再生

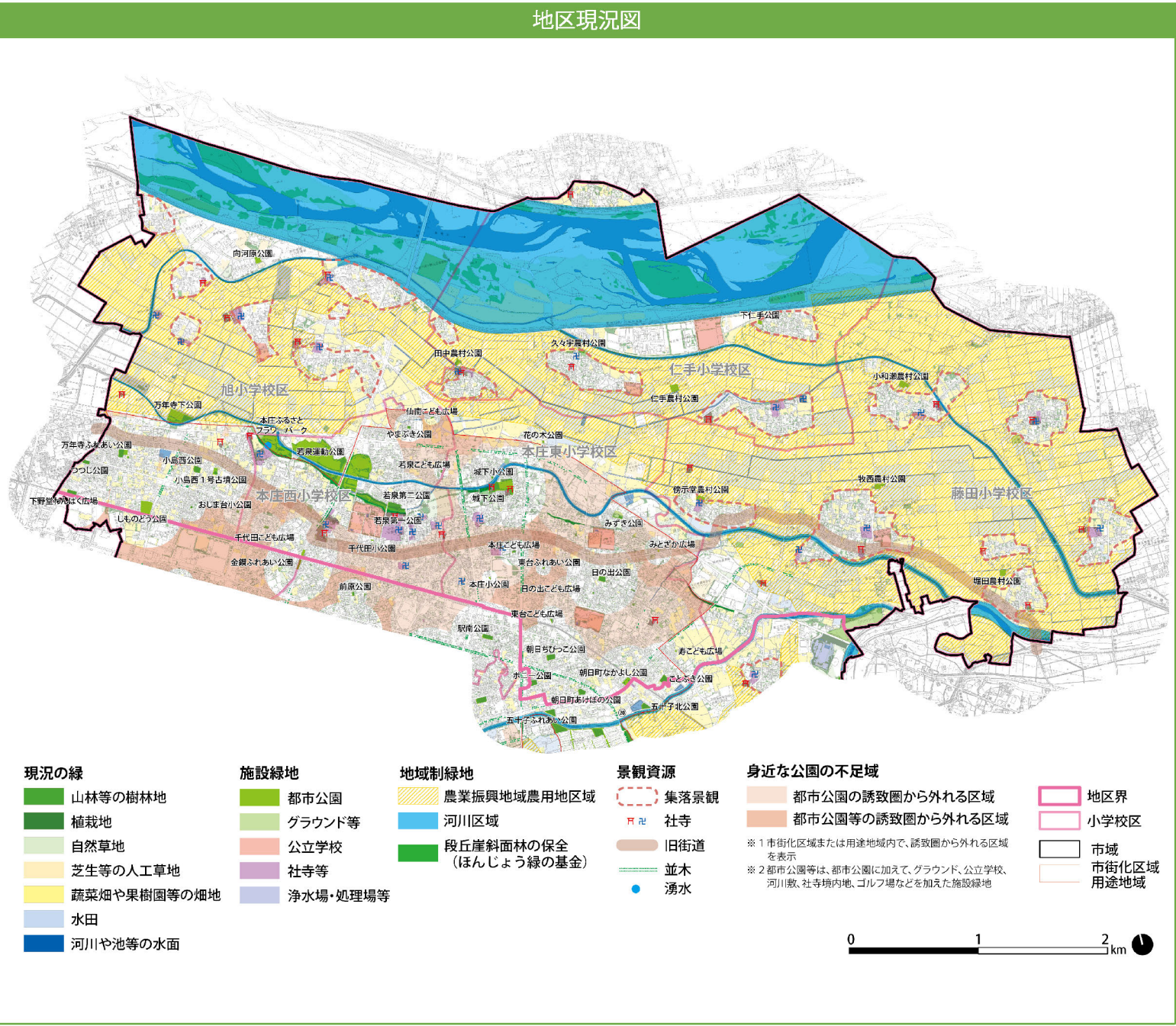
機能別視点による地区特性	生物多様性を維持する緑	エコロジカルネットワーク形成要素	【核】利根川の自然環境、北部の連坦する農地 【拠点】若泉運動公園などの公園、市街地や集落地のまとまった社寺林 【回廊】元小山川、女堀川、備前堀川、御陣場川、街路樹植栽路線 【境界域】元小山川の段急斜面林の一体環境 【優れた自然】利根川の自然樹林・冠水性草原、段丘下の湿性環境（かつての湧水地）
	ヒートアイランド現象を緩和する緑	・本庄駅を中心とする地域では、高温域が形成され、ヒートアイランド現象が顕著である。 ・利根川河川敷や小山川、元小山川、久々宇・仁手・下仁手・牧西・滝瀬・都島・沼和田に分布するまとまった水田がクールスポットを形成し、都市気象の緩和に重要な役割を果たす。	
	災害を緩和する緑	【土砂災害の防止緩和】崖線斜面林 【洪水被害の防止緩和】利根川河川敷、中小河川、水田や畑地等の農地、公園や学校等のオープンスペースにおける自然面、住宅地や商工業地における自然面 【延焼の防止緩和】元小山川、女堀川、崖線斜面林、市街地やその周辺の公園や学校等のオープンスペース・社寺境内地・幅員のある道路や鉄道敷、農地	
	地域の景観を形成する緑	【面的要素】利根川の景観、北部の連坦する田園景観 【線的要素】元小山川と段丘斜面林の一体景観、女堀川、備前堀川、御陣場川、緑化道路、旧中山道 【点的要素】公園、古墳、巨木、地域の神社仏閣、集落景観（屋敷林）、学校・公共施設・商工業地の植栽地	
	レクリエーションの場となる緑	【身近な公園不足域】本庄東小区・本庄西小区・旭小区の一部 【公園を補完する地域の緑のストック】利根川や小山川の河川敷、元小山川、本庄東小などの公立小学校校庭、集落の社寺境内地、調整池（みずき公園隣接地等） 【利用度の低い公園】向河原公園、若泉こども広場、花の木公園、寿こども広場など 【老朽化等のある公園】若泉第二公園など	

※1※3：GISに基づき面積を算出

※2：平成 27 年都市計画基礎調査小調査区人口を用いて算出。小調査区が小学校区界で分割される場合は面積按分で人口を振り分け算出した。

※4：縮尺 1/25000 緑地現況図を 300dpi にラスターライズし、緑地部分のピクセル数のカウントにより算出

※5：数字は、設問の選択肢「そう思う 5」「ややそう思う 4」「どちらでもない 3」「あまりそう思わない 2」「そう思わない 1」により回答された階級値の平均を示す。階級値の中央値は 3。階級値平均が低くなるほど（評価が低いほど）赤みを帯びようセルを着色。



【市街地】

・旭小学校区は、一部に公園不足域が存在するが、しものどう公園等の整備により充足しつつある。

・本庄西小学校区・本庄東小学校区は、若泉運動公園や若泉第一・第二公園といった本市の中核的公園があるが、本庄駅北口周辺などに公園不足域がある。はにほんプラザなどの公共施設、社寺境内地、元小山川といった緑のストックが充実しており、公園を補完するものとして利活用が望まれる。

・本庄駅北口周辺のまちづくりでは、にぎわいと安心して暮らせる住み良いまちの実現に向け、緑化誘導や歩車共存の動線の確保など、官民連携による取り組みが必要である。

・ヒートアイランド現象の緩和や内水氾濫の防止などを図るため、緑化や雨水浸透機能の確保を官民連携で進める必要がある。

【市街化調整区域】

・公園は少ないが、公共施設や社寺境内地、利根川河川敷といった緑のストックが充実しており、公園を補完するものとして利活用が望まれる。子供の遊び場・お年寄りの健康づくりの場として遊具や休息施設の充実の検討が必要である。

・連坦する農地や利根川は、緑の多面的な機能を有し、首都圏レベルのグリーンインフラとして重要な役割を果たしており、自然環境や農地の継続的な保全が必要である。

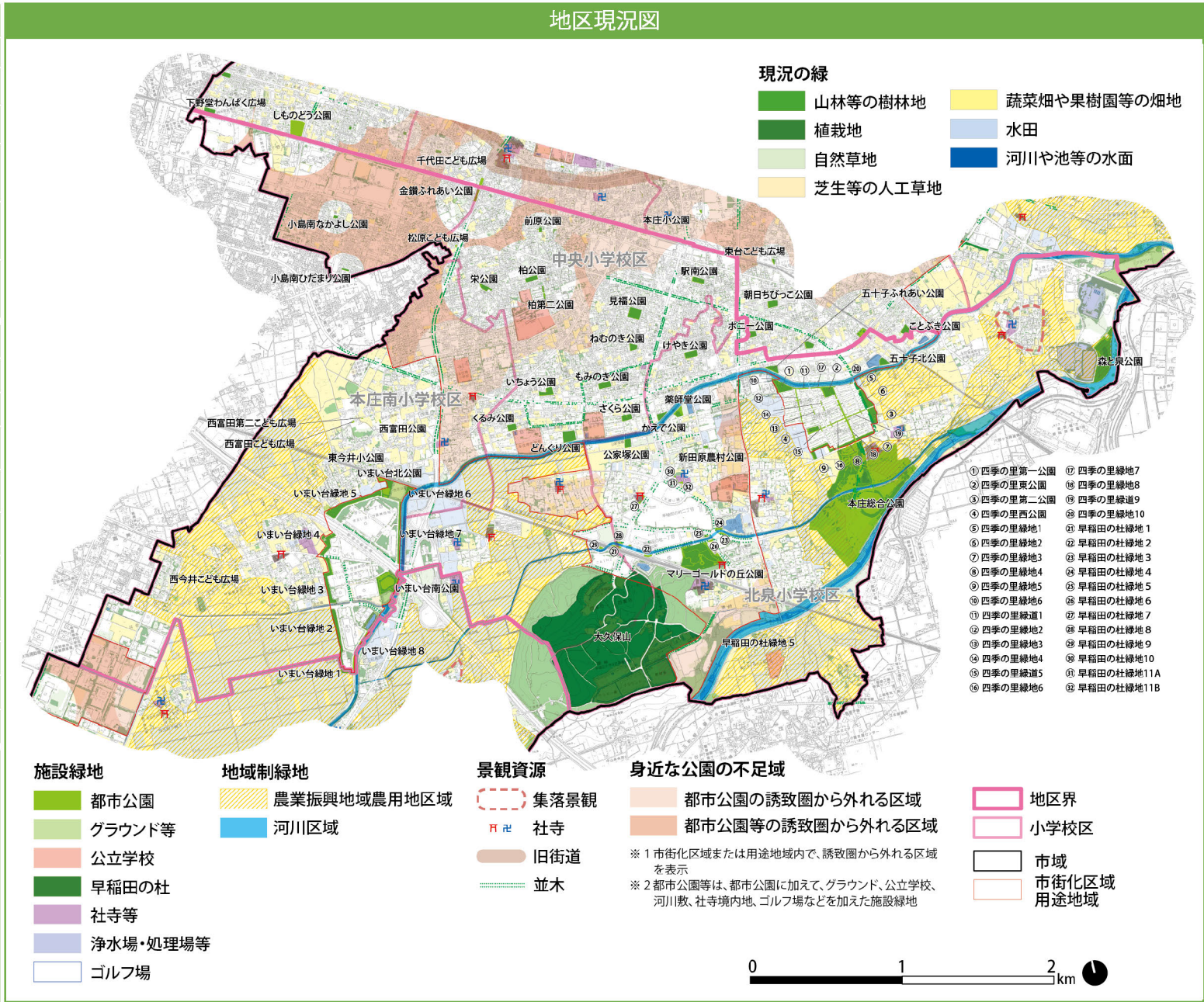
・自然堤防上に形成された集落地では、社寺境内地、巨木、屋敷林など、地域で継承された緑が良好な景観を形成しており、保全が望まれる。

本庄南地区		小学校区		
		本庄南	中央	北泉
区域面積※1	1,329ha	457 ha	337 ha	534 ha
人口※2	26,232 人	8,113	11,408	6,711
緑被率※3 (緑被面積／区域面積)	47.3%	43.7%	37.5%	56.5%
緑地率※4 (緑地面積／区域面積)	33.6%	28.7%	25.8%	42.8%
都市公園整備水準 (都市公園面積／人口)	15.3 m ² /人	7.8 m ² /人	3.0 m ² /人	45.1 m ² /人

市民アンケート調査※5	問 6 将来残しておきたい緑	最多回答	大規模公園の緑	大規模公園の緑	大規模公園の緑
		2 位	市街地に残る緑	市街地に残る緑	市街地に残る緑
		3 位	神社仏閣の緑	身近な公園の緑	身近な公園の緑
	問 8-2 住まいの近くの緑に満足している		2.81	3.05	3.64
	問 8-5 公園等でレクリエーション活動が楽しめる		2.67	2.47	3.54
	問 12-1 ベンチなどの休憩施設が充実している		2.69	2.70	2.93
	問 12-2 安全に遊ぶ遊具が充実している		2.48	2.52	2.46
	問 12-10 身近な環境に公園がある		2.84	3.55	4.16
	問 18 公園・都市緑化 行政における 優先すべき施策	最多回答	大きなレク空間の充実	身近な公園再生	大きなレク空間の充実
		2 位	身近な公園再生	大きなレク空間の充実	街路や川沿いの緑化
		3 位	街路や川沿いの緑化	自然環境保全	身近な公園再生

機能別視点による地区特性	生物多様性を維持する緑	【核】女堀川沿いの連坦する農地 【拠点】大久保山、本庄総合公園、森と泉公園 【回廊】小山川、女堀川、男堀川、街路樹植栽路線 【境界域】小山川グラウンドから本庄総合公園までの公園緑地と小山川の一体環境、大久保山と小山川の一体環境 【優れた自然】大久保山のコナラ等による二次林
	ヒートアイランド現象を緩和する緑	・本庄駅を中心とする地域では、高温域が形成され、ヒートアイランド現象が顕著。 ・大久保山の山林、小山川、女堀川沿いに分布するまとまった水田が、クールスポットを形成し、都市気象の緩和に重要な役割を果たしている。
	災害を緩和する緑	【土砂災害の防止緩和】大久保山 【洪水被害の防止緩和】小山川、その他の中小河川、水田や畑地等の農地、公園や学校等のオープンスペースにおける自然面、住宅地や商業地における自然面 【延焼の防止緩和】女堀川、男堀川、市街地やその周辺の公園や学校等のオープンスペース・社寺境内地・幅員のある道路や鉄道敷、農地
	地域の景観を形成する緑	【面的要素】大久保山、女堀川沿いの連坦する田園景観 【線の要素】小山川と川沿いの公園緑地や大久保山との一体景観、女堀川、男堀川、緑化道路 【点的要素】公園、巨木、地域の神社仏閣、集落景観（屋敷林）、学校・公共施設・商業地の植栽地
	レクリエーションの場となる緑	【身近な公園不足域】小島南など本庄南小区の一部 【公園を補完する地域の緑のストック】小山川の河川敷、女堀川、男堀川、本庄南小などの公立小学校校庭、社寺境内地 【利用度の低い公園】東今井小公園、西今井こども広場、かえで公園など（緩衝緑地や早稲田駅周辺ポケットスペース等を除く） 【老朽化等のある公園】柏第二、さくら、栄、どんぐり、もみのき、見福、駅南、四季の里内の一部公園など

※1※3：GISに基づき面積を算出 ※2：平成27年都市計画基礎調査小調査区人口を用いて算出。小調査区が小学校区界で分割される場合は面積按分で人口を振り分け算出した。 ※4：縮尺1/25000 緑地現況図を300dpiにラスタライズし、緑地部分のピクセル数のカウントにより算出 ※5：数字は、設問の選択肢「そう思う5」「ややそう思う4」「どちらでもない3」「あまりそう思わない2」「そう思わない1」により回答された階級値の平均を示す。階級値の中央値は3。階級値平均が低くなるほど（評価が低いほど）赤みを帯びるようセルを着色。



【市街地】

- ・本庄南小学校区の小島南をはじめ一部に公園不足域が存在するため、今後の公共施設の再編・再整備において、身近なレクリエーション空間の充実が望まれる。また、にぎわいと安心して暮らせる住み良いまちの実現に向け、緑化誘導や歩車共存の動線の確保など、官民連携による取り組みが必要である。
- ・本地区では、主要な公園等が、女堀川、男堀川、小山川により空間的に繋がっている。健康まちづくりの視点から、このような緑地の配置上の利点を活かし、河川敷への散歩道等の整備による公園と河川のネットワーク化が求められる。
- ・公園では、供用後長期が経過し、老朽化や利用ニーズとの乖離、成長した植栽によるトラブルといった問題を有す公園があることから、公園の再整備・再編を検討する必要がある。
- ・ヒートアイランド現象の緩和や内水氾濫の防止などを図るため、緑化や雨水浸透機能の確保を官民連携で進める必要がある。

【市街化調整区域】

- ・公共施設や社寺境内地といった緑のストックを、公園を補完するものとして、利活用が望まれる。利用度の低い狭小公園は、施設の見直しや近くの公園との統合、コミュニティの結びつきの強化など検討する必要がある。
- ・大久保山は、地域景観を形成するランドマーク、及びエコロジカルネットワークの拠点として、一体的で継続的な保全が必要である。
- ・連坦する農地は、緑の多面的な機能を有し、グリーンインフラとして重要な役割を果たしており、自然環境や農地の継続的な保全が必要である。

児玉北地区		小学校区	
		共和	児玉
区域面積※1	1,216ha	790 ha	426 ha
人口※2	11,535 人	4,082 人	7,453 人
緑被率※3 (緑被面積／区域面積)	59.5%	69.7%	40.7%
緑地率※4 (緑地面積／区域面積)	44.7%	57.6%	20.6%
都市公園整備水準 (都市公園面積／人口)	2.0 m ² /人	2.4 m ² /人	1.7 m ² /人

市民アンケート調査※5	問 6 将来残しておきたい緑	最多回答	市街地に残る緑	水辺の緑
		2 位	大規模公園の緑	市街地に残る緑
		3 位	水辺の緑	里山の緑
	問 8-2 住まいの近くの緑に満足している		3.77	3.22
	問 8-5 公園等でレクリエーション活動が楽しめる		2.76	2.40
	問 12-1 ベンチなどの休憩施設が充実している		2.72	2.86
	問 12-2 安全に遊ぶ遊具が充実している		2.54	2.30
	問 12-10 身近な環境に公園がある		2.79	3.20
	問 18 公園・都市緑化 行政における 優先すべき施策	最多回答	山林の保全再生	身近な公園再生
		2 位	農地の保全	街路や川沿いの緑化
		3 位	大きなレクリエーション空間の充実	自然環境の保全

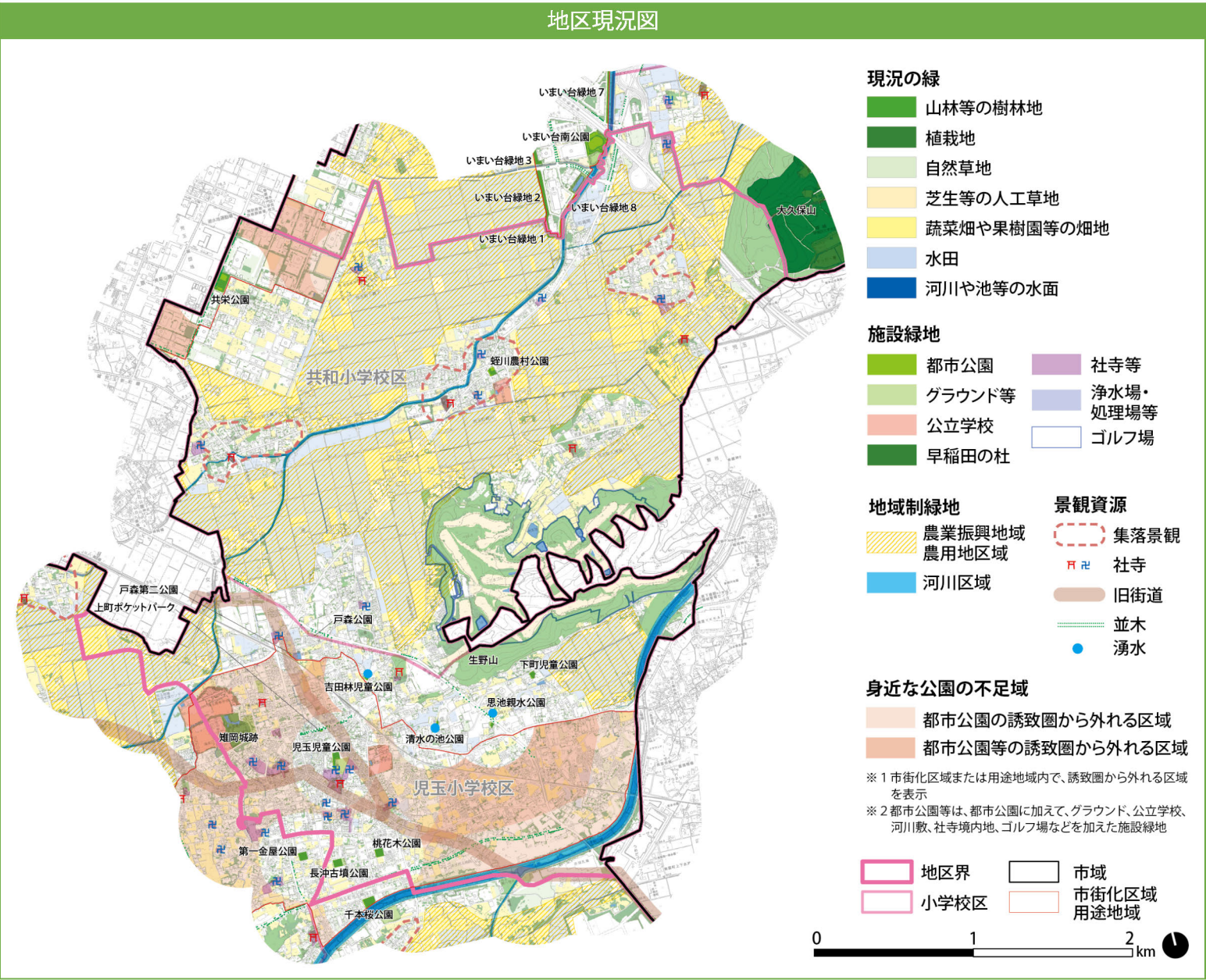
機能別視点による地区特性	生物多様性を維持する緑	エコロジカルネットワークの形成要素	【核】女堀川沿いの連坦する農地 【拠点】大久保山、生野山 【回廊】小山川、女堀川、男堀川、街路樹植栽路線 【境界域】生野山と小山川の一体環境 【優れた自然】思池浸水公園・清水の池公園・吉田林児童公園の湧水
	ヒートアイランド現象を緩和する緑	・大久保山や生野山の山林、小山川、浅見・蛭川・真下・吉田林・児玉2に分布するまとまった水田が、クールスポットを形成し、都市気象の緩和に重要な役割を果たしている。	
	災害を緩和する緑	【土砂災害の防止緩和】大久保山、生野山 【洪水被害の防止緩和】小山川、その他の中小河川、水田や畑地等の農地、公園や学校等のオープンスペースにおける自然面、住宅地や商工業地における自然面 【延焼の防止緩和】女堀川、男堀川、市街地やその周辺の公園や学校等のオープンスペース・社寺境内地・幅員のある道路や鉄道敷、農地	
	地域の景観を形成する緑	【面的要素】大久保山、生野山、女堀川沿いの連坦する田園景観 【線の要素】小山川千本桜、小山川及び生野山の一体景観、女堀川、男堀川、緑化道路、旧鎌倉街道 【点的要素】雉岡城跡、公園、湧水公園、古墳、巨木、地域の神社仏閣、集落景観（屋敷林）、ため池、学校・公共施設・商工業地の植栽地	
	レクリエーションの場となる緑	【身近な公園不足域】児玉小区の一部 【公園を補完する地域の緑のストック】小山川の河川敷、女堀川、男堀川、児玉小などの公立小学校校庭、社寺境内地 【利用度の低い公園】戸森第二、戸森、清水の池、思池親水、吉田林児童、下町児童、長沖古墳、桃花木など 【老朽化等のある公園】児玉児童公園、吉田林児童公園など	

※1※3：GISに基づき面積を算出

※2：平成27年都市計画基礎調査小調査区人口を用いて算出。小調査区が小学校区界で分割される場合は面積按分で人口を振り分け算出した。

※4：縮尺1/25000緑地現況図を300dpiにラスタライズし、緑地部分のピクセル数のカウントにより算出

※5：数字は、設問の選択肢「そう思う5」「ややそう思う4」「どちらでもない3」「あまりそう思わない2」「そう思わない1」により回答された階級値の平均を示す。階級値の中央値は3。階級値平均が低くなるほど（評価が低いほど）赤みを帯びるようセルを着色。



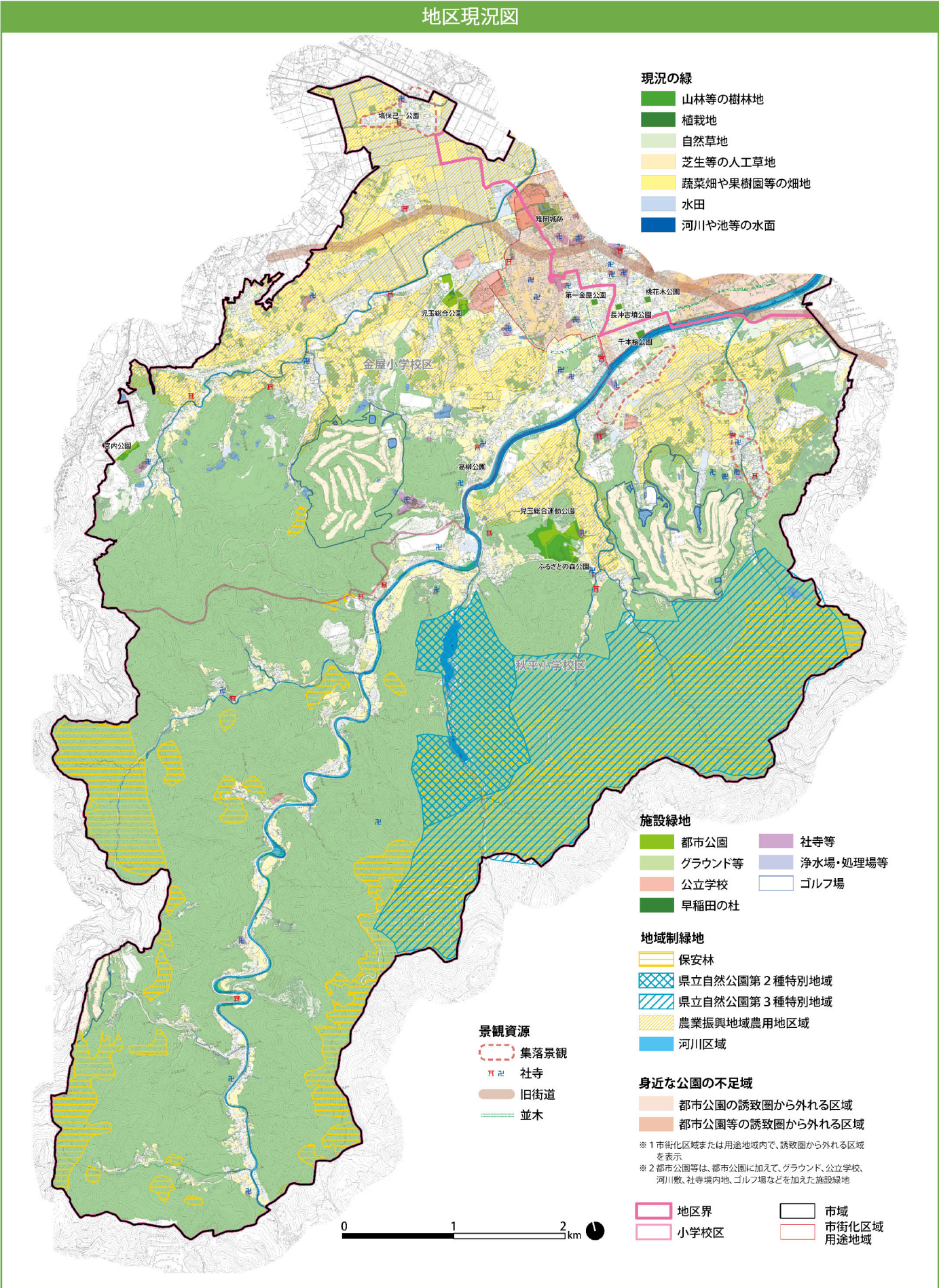
児玉南地区		小学校区	
		金屋	秋平
区域面積※1	4,075 ha	1,211ha	2,864ha
人口※2	8,353 人	5,518 人	2,835 人
緑被率※3 (緑被面積／区域面積)	87.6%	77.7%	91.8%
緑地率※4 (緑地面積／区域面積)	39.7%	36.9%	40.9%
都市公園整備水準 (都市公園面積／人口)	17.3 m ² /人	6.4 m ² /人	38.7 m ² /人

市民アンケート調査※5	問 6 将来残しておきたい緑	最多回答	里山の緑	水辺の緑
		2 位	市街地に残る緑	里山の緑
		3 位	水辺の緑	市街地に残る緑
	問 8-2 住まいの近くの緑に満足している		3.67	4.23
	問 8-5 公園等でレクリエーション活動が楽しめる		2.45	2.88
	問 12-1 ベンチなどの休憩施設が充実している		2.13	2.50
	問 12-2 安全に遊べる遊具が充実している		1.87	1.79
	問 12-10 身近な環境に公園がある		2.44	2.82
	問 18 公園・都市緑化行政における優先すべき施策	最多回答	身近な公園再生	山林の保全再生
		2 位	街路や川沿いの緑化	街路や川沿いの緑化
		3 位	山林の保全再生	自然環境の保全

機能別視点による地区特性	生物多様性を維持する緑	エコロジカルネットワークの形成要素	【核】南部の山林地帯、丘陵地や女堀川沿いなどの連坦する農地 【拠点】雉岡城跡 【回廊】小山川、女堀川、街路樹植栽路線 【境界域】秋山、小平、高柳、飯倉、宮内にわたる丘陵の里山・田園地域、及び丘陵に開削された谷津田、各支流上流の谷底環境 【優れた自然】南部山林地帯のコナラ等による二次林
	ヒートアイランド現象を緩和する緑	・南部山林地域、金屋・塩谷・秋山に分布するまとまった水田が、クールスポットを形成し、都市気象の緩和に重要な役割を果たしている。	
	災害を緩和する緑	【土砂災害の防止緩和】南部の山林地帯 【洪水被害の防止緩和】小山川、その他の中小河川、水田や畑地等の農地、公園や学校等のオープンスペースにおける自然面、住宅地や商業地における自然面 【延焼の防止緩和】市街地の公園や学校等のオープンスペース・社寺境内地・幅員のある道路や鉄道敷、農地	
	地域の景観を形成する緑	【面的要素】南部の山林景観、秋山から宮内にわたる丘陵の里山・田園景観 【線的要素】小山川千本桜、小山川、女堀川、緑化道路、旧鎌倉街道 【点的要素】公園、古墳、巨木、神社仏閣、集落景観、ため池、学校・公共施設・商業地の植栽地	
	レクリエーションの場となる緑	【公園を補完する地域の緑のストック】社寺境内地、小山川の河川敷、公立小学校校庭 【利用度の低い公園】高柳公園、宮内公園など 【老朽化等のある公園】高柳公園など	

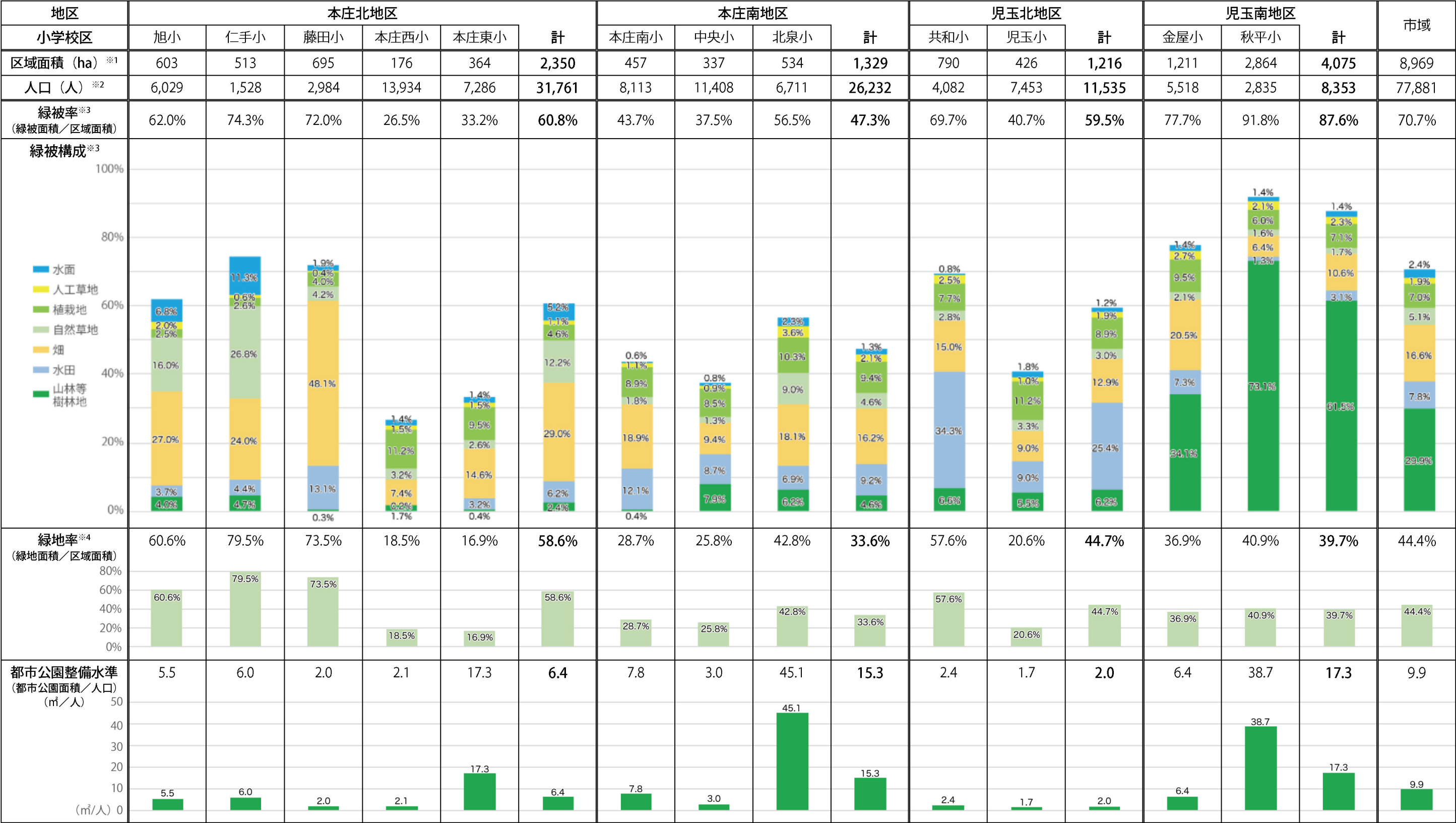
主な課題	・公園は少ないが、公共施設や社寺境内地といった緑のストックが充実しており、公園を補完するものとして利活用が望まれる。子供の遊び場・お年寄りの健康づくりの場として遊具や休息施設の充実の検討が必要である。
	・雉岡城跡は、地域景観を形成するランドマークとして、及びエコロジカルネットワークの拠点として、一体的で継続的な保全が必要である。
	・南部の山林地帯、連坦する農地は、緑の多面的な機能を有し、首都圏レベルのグリーンインフラとして重要な役割を果たしている。農林業振興や市民活動との連携により、山林や農地の継続的な保全が必要である。
	・社寺境内地、巨木、屋敷林など、地域で継承された緑が良好な景観を形成しており、保全が望まれる。
	・小山川・女堀川は、本庄地域と児玉地域のほか隣接自治体を結び、周囲には自然景観・歴史文化資源などが分布していることから、グリーンツーリズムのルートとして活用が望まれる。

地区現況図



※1※3：GISに基づき面積を算出 ※2：平成27年都市計画基礎調査小調査区人口を用いて算出。小調査区が小学校区界で分割される場合は面積按分で人口を振り分け算出した。 ※4：縮尺1/25000 緑地現況図を300dpiにラスタライズし、緑地部分のピクセル数のカウントにより算出 ※5：数字は、設問の選択肢「そう思う5」「ややそう思う4」「どちらでもない3」「あまりそう思わない2」「そう思わない1」により回答された階級値の平均を示す。階級値の中央値は3。階級値平均が低くなるほど（評価が低いほど）赤みを帯びるようセルを着色。

地区別の緑被率・緑地率・都市公園整備水準



※1※3：GIS に基づき面積を算出
※2：平成 27 年都市計画基礎調査小調査区人口を用いて算出。小調査区が小学校区界で分割される場合は面積按分で人口を振り分け算出した。
※4：縮尺 1/25000 緑地現況図を 300dpi にラスタライズし、緑地部分のピクセル数のカウントにより算出